

所属員調査にもとづく『複写』業務の位置づけ

平成 28 年 5 月 9 日
日本複写産業協同組合連合会

複写連では所属員の経営実態を知るべくアンケート調査事業を毎年度行っています。複写事業の具体的な数値を求める調査としては、平成22・23年度の2年度にわたり各社の経営状況および経営意識調査を実施しました。本レポートは、主として平成24年3月31日発行の『平成23年度 所属員経営状況・意識調査報告書』(ご提出済)から、業界における複写事業の実状(情)を示すデータを抜粋し、まとめたものです。

当該調査では業界各社の遂行する諸業務の動向を、出来る限り具体的に把握することを目的としました。そのため、業界が顧客に提供しているサービスを下記15項目の業務に分類し、それぞれについて6項目の設問をもって問いかけました。(以下の回答集計においてはそれぞれの業務を右記の略称で表記します。)

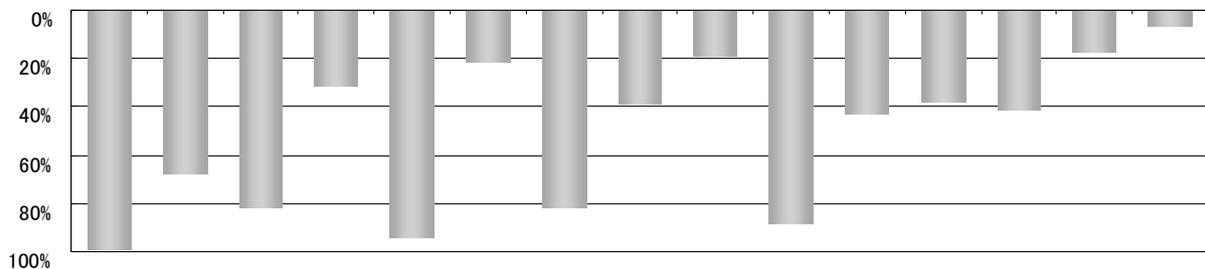
- ① 複写業務(モノクロ複写, カラー複写, ジアゾ複写)…………… 複写
- ② プリントオンデマンド業務…………… POD
- ③ 大判グラフィック出力業務(CADデータ出力を除く)…………… 大判
- ④ オフセット等印刷業務…………… 印刷
- ⑤ 電子ファイリング(スキャニング)業務…………… 電子化
- ⑥ マイクロフィルム撮影・出力業務…………… MF
- ⑦ CADデータ入力および図面出力業務…………… CAD
- ⑧ 建設CALS電子納品支援業務…………… CALS
- ⑨ GIS(地理情報システム)関連業務…………… GIS
- ⑩ 製本・加工業務…………… 製本
- ⑪ 企画・制作業務(DTP, WEB, 動画等)…………… 制作
- ⑫ 事務機・消耗品・その他商品の販売業務…………… 販売
- ⑬ 文書管理・出力等のアウトソーシング業務…………… OS
- ⑭ 人材派遣業務…………… 派遣
- ⑮ その他の業務…………… その他

問4 自社資源での遂行業務

上記業務のうち、主として自社の資源(人材・機材等)をもって遂行している業務を選択する設問。

(回答数, %)

業務	複写	POD	大判	印刷	電子化	MF	CAD	CALS	GIS	製本	制作	販売	OS	派遣	その他	計
回答社数	108	74	89	34	103	23	89	42	21	96	47	41	45	19	7	
遂行率	99.1%	67.9%	81.7%	31.2%	94.5%	21.1%	81.7%	38.5%	19.3%	88.1%	43.1%	37.6%	41.3%	17.4%	6.4%	109社



回答109社のうち複写業務はほぼ全社が遂行しており、電子化(94.5%)、製本(88.1%)が続く、CAD入・出力と大判出力は共に81.7%の遂行率で並び、POD(67.9%)の順となる。自社遂行率50%を超えるこの6業務が業界に普遍的な自社遂行業務と云える。

複写業務は青写真から連綿として続く当業界の基幹業務である。したがって100%の自社遂行率は当然の数値として理解できる。

問5 売上上位の業務

表記全業務のうち、直近年度の売上において、外注・内製を問わず売上比重の高い5業務を選び、売上順位をもって回答する設問。

(回答数, %)

順位	複写	POD	大判	印刷	電子化	MF	CAD	CALS	GIS	製本	制作	販売	OS	派遣	その他	計
1位	57	14	4	7	5		8	1	1	3		4	1		2	107
2位	14	14	5	6	21	3	9	2	2	20	2	3	4	1	1	107
3位	9	9	5	11	22	4	17	2	2	15	1	2	3	3	2	107
4位	14	14	15	6	14		13	2	1	13	4	6	1	2		105
5位	6	8	12	4	14	2	15	4	2	18	8	3	4	1	1	102
合計	100	59	41	34	76	9	62	11	8	69	15	18	13	7	6	528
ランクイン率	94.7%	55.9%	38.8%	32.2%	72.0%	8.5%	58.7%	10.4%	7.6%	65.3%	14.2%	17.0%	12.3%	6.6%		
首位率	57.0%	23.7%	9.8%	20.6%	6.6%		12.9%	9.1%	12.5%	4.3%		22.2%	7.7%			

上位5位までに挙げられた最多業務は、回答107社中100社でランクインした**複写**。次いで、**電子化**(76社)、**製本**(69社)、**CAD**(62社)、**POD**(59社)の順であった。業界の普遍的自社遂行業務とした**大判出力**は41社でランクインするに留まっており、回答社数を分母とする比率(**ランクイン率**)では低位の状況である。

他方、売上トップの業務をみると、やはり有効回答107社中57社が第1位とした**複写**業務であったが、次いで**POD**(14社)、**CAD**入・出力(8社)、**印刷**(7社)、**電子化**(5社)、**大判出力**、**販売**(4社)、**製本**(3社)の順となった。当該業務を上位5位までにあげた社数合計を分母とする比率を**首位率**とするならば、半数以上が売上トップとした**複写**(57%)を別格として、**POD**(24%)、**販売**(22%)、**印刷**(21%)、**CAD**(13%)の順となった。

平成23年度における上記調査ではドキュメントのデータ出力(プリント)業務を、プリントオンデマンド、大判グラフィック出力、CADデータ出力の3種に類別し上記の結果を得たが、最新の平成27年度調査では設問を単純化し、「**複写方式**による売上」と「**データ出力方式**による売上」の比較で問うてみた。その集計結果は下表のとおり、既に過半の企業でデータ出力方式にもとづく売上が複写方式を上回っていることが明らかとなった。

- ◆ 貴社では、複写方式による売上高とデータ出力方式による売上を比較すると、どちらが大きいでしょうか。

質問	回答社数	%
複写方式にもとづく売上の方が大きい	34	19.1%
出力方式にもとづく売上の方が大きい	109	61.2%
同じくらい	35	19.7%

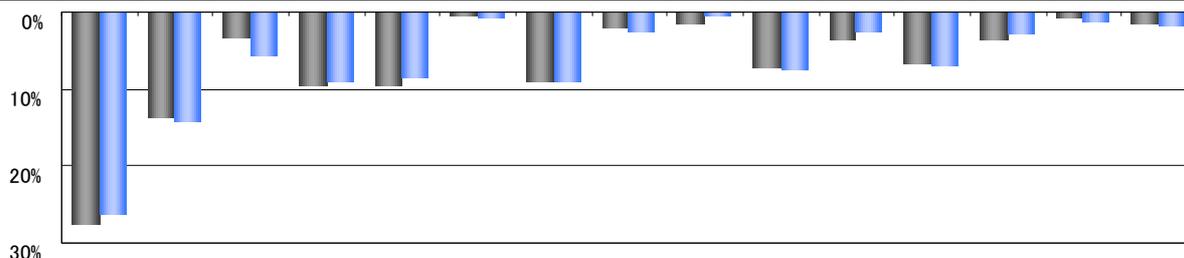
問6 上位5業務の売上構成比

前問で選択した5業務が総売上に占める割合を該当する範囲で回答する質問。本調査前段の設問で各社の売上額を得ているため、回答企業の業務別売上高が推定できる。それぞれを合計することによって回答企業全体の売上規模と業務別の売上構成比を推定することができる。なお本資料では最新期売上高10億円以下のデータを採用した。

業務別売上構成比推定値:最新期売上高10億円以下企業

(%)

業務	複写	POD	大判	印刷	電子化	MF	CAD	CALS	GIS	製本	制作	販売	OS	派遣	その他	回答計
今回調査	27.6%	13.6%	3.3%	9.5%	9.6%	0.4%	8.9%	2.1%	1.6%	7.2%	3.7%	6.6%	3.7%	0.7%	1.4%	79社
前回調査	26.4%	14.3%	5.7%	9.1%	8.5%	0.7%	9.1%	2.6%	0.6%	7.6%	2.5%	6.9%	2.9%	1.4%	1.7%	83社



複写(28%)、**POD**(14%)に続いて**電子化**、**印刷**(各10%)、**CAD**(9%)が拮抗する結果となった。概ね前回調査と同様に、業界の提供する主要なドキュメントサービス業務にもとづく構成比となった。この複写業務への売上依存度28%をもって本業比率と呼び得るのであろうか。

問7 主要業務(5位以上)の売上動向

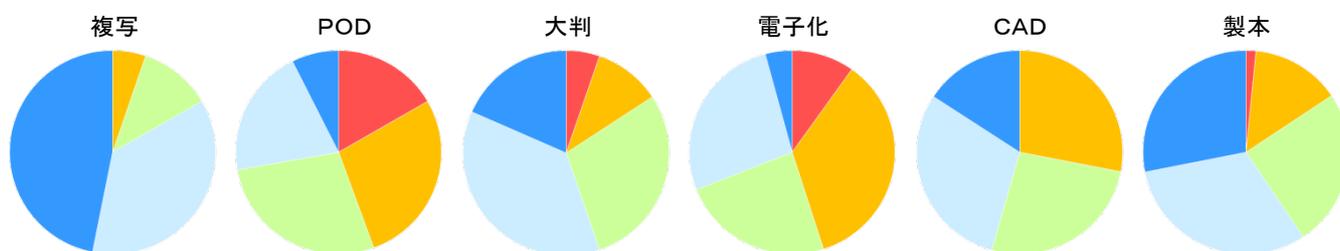
上位主要5業務の調査直近(2~3年)の売上動向を5つの選択肢から選ぶ質問。

(回答数)

	複写	POD	大判	印刷	電子化	MF	CAD	CALS	GIS	製本	制作	販売	OS	派遣	その他	有効数
かなり増		9	2		7			1		1	2	1			1	24
漸増	5	15	4	5	25		16	1	4	9	4	2	2	3	1	96
変化なし	11	15	11	11	17	3	15	4	1	16	3	4	7	3	4	125
漸減	35	11	14	9	19	3	17	4	1	20	3	3	3	1		143
かなり減	45	4	7	6	3	2	9		1	18	2	8				105
有効数	96	54	38	31	71	8	57	10	7	64	14	18	12	7	6	498

複写業務の減少傾向回答は96社中80社(83%)。前回調査の87社中73社(84%)と較べても減衰傾向に変化は見えない。これに対して、電子化(増32社:減22社)、POD(増24社:減15社)では増加回答が減少を上回った。両業務とも前回の傾向を継続している。一方、CAD業務については、増16社に対し減26社と、前回(増20社:減17社)から反落する結果となった。

あらためて業界での自社遂行比率の高い6業務を取り上げ、その売上動向を円グラフに表してみると、複写業務の減衰傾向は顕著に窺える。

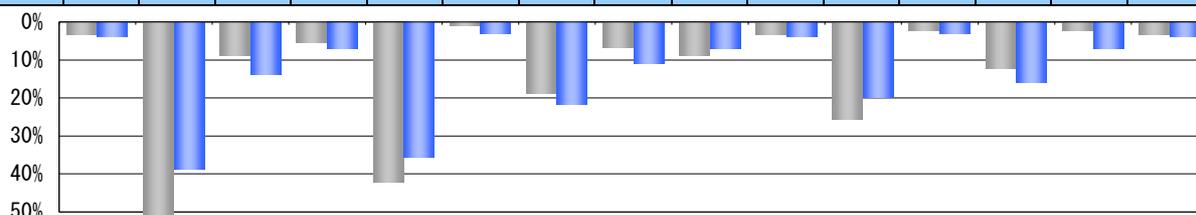


問8 今後の市場拡大を予想する業務

回答者が今後の市場拡大を想定する業務を複数回答可として質問した。

(社数, 有効回答比)

	複写	POD	大判	印刷	電子化	MF	CAD	CALS	GIS	製本	制作	販売	OS	派遣	その他	回答計
今回調査	3	46	8	5	38	1	17	6	8	3	23	2	11	2	3	176
社数比	3.3%	51.1%	8.9%	5.6%	42.2%	1.1%	18.9%	6.7%	8.9%	3.3%	25.6%	2.2%	12.2%	2.2%	3.3%	90社
前回調査	4.0%	38.7%	13.9%	6.9%	35.7%	3.0%	21.8%	10.9%	6.9%	4.0%	19.9%	3.0%	15.9%	6.9%	4.0%	82社



今後の市場成長を予想する業務(複数回答可)に寄せられた回答を前回調査結果と対比した。POD業務を想定する回答が半数を超え電子化が続くが、その差に拡大傾向がうかがえる。これに続いては1/4の企業が企画・制作業務を予想し、前回のCAD入・出力業務を上回る結果となった。また、大判出力業務は大きく減少し、アウトソーシング受託業務も値を下げた。なお、今回の1社あたり平均の選択業務数は1.96、前回調査では2.4であった。図表の前回調査比率はこの差異を織り込んで表示している。

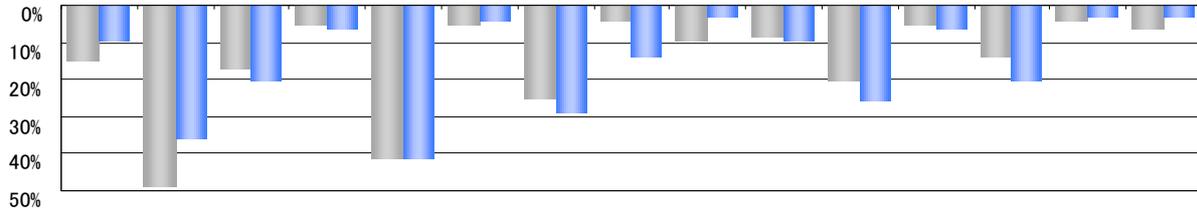
本設問で複写業務の将来に光明を見出すものは、90社中3社(3%)に留まる。既に成熟期をも終えたサービス業務であるとの認識は共有されていると考えられる。

問9 自社の注力業務

回答各社が今後さらに力を入れ、売上拡大を図りたいと考える業務を問うた。また、該当する業務が複数ある場合は、その優先度にしたがって順位付けを求めた。

(社数, 有効回答比)

	複写	POD	大判	印刷	電子化	MF	CAD	CALS	GIS	製本	制作	販売	OS	派遣	その他	回答計
今回調査	14	45	16	5	38	5	23	4	9	8	19	5	13	4	6	214
(最優先)	(6)	(30)	(7)	(2)	(17)	(3)	(8)	(3)	(4)	(1)	(4)	(3)	(2)		(2)	92
社数比	15.4%	48.9%	17.4%	5.4%	41.3%	5.4%	25.0%	4.3%	9.8%	8.7%	20.7%	5.4%	14.1%	4.3%	6.5%	92社
前回調査	9.6%	36.3%	20.3%	6.4%	41.6%	4.3%	28.8%	13.9%	3.2%	9.6%	25.6%	6.4%	20.3%	3.2%	3.2%	81社



今後自社が注力する業務としては**POD**が回答者のほぼ半数(45社)を占め、しかもその2/3(30社)が最優先課題業務と回答した。次いでは、**電子化**(38社/17社)、**CAD**(23社/8社)、**制作**(19社/4社)、**大判出力**(16社/7社)となった。前回調査の1社平均選択数が2.7業務であるのに対して、今回の回答では2.3業務であった。各社の注力方向が絞られてきた結果かも知れない。

この仮説から関心を覚えるのは、**複写業務**に注力すると答えた企業が、前回の9社から14社に、さらに最優先とするのも6社を数えることである。縮小市場にあっても商品選択の戦略的判断は考えられることである。

一方で、大半の企業は複写以外の業務分野に成長機会を求め、その経営資源の投入を図るべく行動を起こしていることも明白な事実である。

◆ まとめ

当業界は青写真感光紙の誕生と共に生まれ、青写真感光紙を活用した図面類の複製加工を生業とすることから100年にわたる歴史を刻んでまいりました。しかるに時代の変化とともにその業容・業態も大きな変化に見舞われています。

業界を支えてきたその複写業務に焦点をあわせ、これまでの調査結果から窺える事実を列挙して本レポートのまとめとします。

- ① 複写業務は、かつては業界の基幹事業であった、したがって当業界に属するすべての事業者は自社資源をもって複写業務を遂行している。
- ② 多くの複写事業者にとって、複写業務は依然として売上を構成する主要項目である。
- ③ しかし業界を俯瞰した場合には、複写業務による売上構成比は3割に及ばない状況である。
- ④ さらに近年では、複写業務による売上額は業界内8割以上の事業者で減少を続けており、今後の成長期待も皆無に等しい状況である。
- ⑤ 斯様な経営環境下、事業者の指向は複写業務からデジタルプリント業務、電子化業務等のドキュメントサービス事業に向けられている。